

訪問型支えあいの人材確保に係る短期的に行う取組について(確定版)

・本部会で協議を行った取組結果をまとめた資料となります。

※黄色部分は訪問型支えあい活動の人材確保に係る課題と共通した課題です。(福祉と医療の総合情報サイト<かわにしサポートナビ>をかわナビとする)

目的	いただいたアイデア	実施内容
連携	支えあい(訪問・通いの場)活動者の全市的ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容ごとにネットワーク化を行い、勉強会や情報共有により各地域の活性化をめざす ・生活支援コーディネーターが多様な団体の集まりの場に参加し、自治会、民生委員、地区福祉委員やその他の活動者が横の連携を作る <p>▶訪問型支えあい活動者の交流会の開催(第1回令和6年1月29日開催)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の信条である隣人愛をもって社会福祉に努めることは、福祉委員が求められることと同じである。民生委員と福祉委員が協働して見守り、生活支援を行う関係性を構築したい。 	
広報・啓発	かわにしサポートナビの充実 例)かわにしサポートナビ内での求人広告の掲載など(魅力ある仕事内容や画像でのPR)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーターがより多くの地域資源の掲載を行う ・随時情報更新を行う他に、年1回の一斉更新を行い、掲載情報の信憑性を保つ ・市民や専門職へかわナビの周知啓発や利用促進をすることで、掲載情報の活用をすすめる <p>▶生活支援コーディネーターが各地域包括支援センター訪問による啓発活動を実施した</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動団体がSNSを活用することは、まだまだアナログ派が多いため、現時点では難しいのではないかと ・徐々にさらなるネット社会となり、広報手段も簡単に情報が行きわたるようになる。それまでは、粛々とあらゆる手段を使った広報に取り組むことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、市広報誌に特集記事を掲載できるよう依頼している ・広報誌へ掲載することができる場合、本部会において特集記事の内容の協議を行う ・かわナビの周知と利用促進をすすめ、地域活動の周知を行っていく ・二次元コードや動画を多様な場面で活用できるよう検討する ・川西市生活支援サポーター養成研修受講者の募集については、紙面による申込みと二次元コードを活用した申込みを行っている <p>▶生活支援コーディネーターが取り組む</p>

訪問型支えあいの人材確保に係る中・長期的に行う取組について(確定版)

・本部会で協議を行った取組結果をまとめた資料となります。

※黄色部分は訪問型支えあい活動の人材確保に係る課題と共通した課題です。(福祉と医療の総合情報サイト<かわにしサポートナビ>をかわナビとする)

目的	いただいたアイデア	実施内容
人材	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区のコミュニティ団体等が行っているワンコイン等の有償ボランティアを市がとりまとめ、市内全域で共通のサービスが提供できる仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容ごとにネットワーク化を行い、勉強会や情報共有により各地域の活性化をめざす ・生活支援コーディネーターが多様な団体の集まりの場に参加し、自治会、民生委員、地区福祉委員やその他の活動者が横の連携を作る <p>➡訪問型支えあい活動者の交流会の開催(第1回令和6年1月29日開催)</p>
	若い担い手の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・包括連携協定を締結している大学へ生活支援体制整備事業の周知を行うことで、連携して取組が進められるよう関係づくりを行う ・学校等でのボランティア体験の検討 ・川西市ボランティア活動センターとの連携 <p>➡生活支援コーディネーターが取り組む</p>
	介護予防ボランティア制度の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・介護施設等で高齢者(65歳以上)がボランティア活動をするとポイントが付与され、年間上限までポイントを貯めることができ、ポイントに応じ交付金等で受け取れる仕組みなど <p>➡(仮称)介護予防ポイント制度を創設する</p>
	多世代参加型食堂	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂の様に高齢者が昼食をワンコインで食べられるような場や喫茶の場 <p>➡かわナビの関係者用サイトの空きスペース情報を活用する</p>
	川西市生活支援サポーター養成研修の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・「川西市生活支援サポーター養成研修」の受講場所を増やす。 ・受講場所を市内各地に増やすとともに日時にも幅を持たせ仕事、子育て、介護をしている方も日時を融通して受講でき、興味を持った時にすぐ受講ができる仕組みが必要 <p>➡川西市生活支援サポーター養成研修の開催方法の検討する</p>
財源	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防・生活支援サービス事業、一般介護予防事業の研究 ・活動団体への補助制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・有効な訪問型支えあい活動団体に対する補助制度について検討していく。 ・第1層生活支援コーディネーターにおいて、他市町村の事例について調査する <p>➡訪問型支えあい活動に対する補助制度を創設する</p>
広報・啓発	<ul style="list-style-type: none"> SNSの活用 ・アプリを使った安否確認や近況確認ができるようにスマートフォンの活用 ・スマートフォン利用の促進を行う ・孤立を防ぐ多様なつながりを持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン講習会の開催 ・地域住民同士のスマートフォン等の利用方法を学べる場づくりを第2層生活支援コーディネーターがサポートする <p>➡生活支援コーディネーターが取り組む</p>

目的	いただいたアイデア	実施内容
連携	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員でも担当の持ち場・住人のすべての事柄を把握できるわけではない。普段からお互いの悩みを共有し手遅れにならない日頃からのコミュニケーションが取れることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員、自治会、地区福祉委員やその他の活動者の横の連携を作る ➡生活支援コーディネーターが多様な団体の集まりに参加する
	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りに必要な情報の提供（行政→民生委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央包括支援センターが地域ケア個別会議の更なる活性化に向けて地域包括支援センターへ働きかける ➡地域ケア個別会議で共有していく
	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職への活動の周知と理解の働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央包括支援センターと連携し、地域包括支援センターと生活支援コーディネーターの連携を強化する ・専門職の連絡会や交流会へ生活支援コーディネーターが出席する ・第2層生活支援コーディネーターの地域ケア個別会議への出席を地域包括支援センターへ働きかける ➡・生活支援コーディネーターが地域包括支援センターと地域診断の情報共有を行う ・生活支援コーディネーターが地域ケア個別会議へ出席している
	<ul style="list-style-type: none"> 大学、企業などとの広域的な連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1層生活支援コーディネーターが商工会に対して、生活支援体制整備事業の周知を行うことで、連携して取組を進められるよう関係づくりを行う ➡市商工会機関誌に地域活動についての調査票を同封し調査を行う ・包括連携協定を締結している大学へ生活支援体制整備事業の周知を行うことで、連携して取組が進められるよう関係づくりを行う ➡生活支援コーディネーターが取り組む